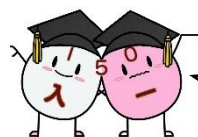


研究主題

児童を中心としたカリキュラム・マネジメント
～自由進度学習の可能性を探る～

マイプラン・タイム（2教科2単元）

第6学年 音楽科・理科学習指導案



本校では単元内自由進度学習を
『マイプラン・タイム』と呼んで
いるよ。

実施期間：令和7年5月16日～6月4日

対 象：第6学年 71名（特別支援学級含む）

場 所：第6学年教室・教室前廊下・音楽室・理科室

授 業 者：平澤勇二 村山友明 榎英子 今井政之

- 1 単元名 **音楽科** 「いろいろな音のひびきを味わおう」（小学生の音楽 教育芸術社）（8時間）
理科 「動物のからだのはたらき」（新しい理科 東京書籍）（9時間）

2 単元の目標

音楽科

いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら表現する活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組み、様々な楽器の音色に親しむ。

理科

体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、人や他の動物の体のつくりと働きについての理解を図り、実験、調査などに関する技能を身に付けるとともに、主に、より妥当な考えをつくりだす力や生命を尊重する態度、主体的に問題解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
音楽科	曲想と音色などの音楽の構造との関わりや、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。 思いや意図に合った表現をするために必要な音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。	音色、リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら表現する活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
理科	呼吸や消化、吸収、循環などの仕組みとそれらに関わる臓器の働きについて理解している。 人や他の動物の体のつくりと	人や他の動物の体のつくりと働きについて、実験、調査などを行い、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについ	人や他の動物の体のつくりと働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く問題解決をしようとしている。

働きについて、実験調査などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	て、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。	人や他の動物の体のつくりと働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	-----------------------------------	---

4 指導観

(1) 単元観

音楽科 本単元で扱う内容は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）において、以下のように位置付けられている。

音楽〔第 5 学年及び第 6 学年〕 2 内容

A 表現

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

本題材で扱われる合奏「ラバーズコンチェルト」は、「主な旋律」「飾りの旋律」「和音」「低音」の 4 つの旋律に加え、「打楽器」の 5 つのパートから構成されているが、楽器の指定がない。児童が 5 つのパートを表現する中で、これまでの楽器演奏の経験から得た知識を生かしながら、どのような楽器と音色がふさわしいかを自分自身で考えながら表現する内容となっている。

各パートの演奏では、どのような楽器を使い、強弱や音色などをこれまでの経験の中から考えるとともに、参考動画と自分自身の演奏を比較しながら、より良い演奏にするためにはどのようにしたらよいかを常に考えることで、児童の活動が主体的になることをねらっている。

理科 本単元で扱う内容は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）において、以下のように位置付けられている。

理科〔第 6 学年〕 2 内容

B 生命・地球

(1) 人の体のつくりと働き

人や他の動物を観察したり資料を活用したりして、呼吸、消化、排出及び循環の働きに着して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていること。

(イ) 食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。

(ウ) 血液は、心臓の働きで体内を巡り、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいること。

(エ) 体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があること。

イ 人や他の動物の体のつくりと働きについて追究する中で、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

本内容は、第4学年「B(1) 人の体のつくりと運動」の学習を踏まえて、「生命」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうちの「生物の構造と機能」に関わるものである。

ここでは、人や他の動物の体のつくりについて興味・関心をもって追究する活動を通して、人や他の動物の体のつくりと働きについて推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、人や他の動物の体のつくりと働きについての見方や考え方をもちことができるようにすることがねらいである。

そこで、児童が興味・関心をもって自分で計画立てて学習を進めていくことができるよう、「身近な学習材」や「体験的な活動」を重視した学習活動を取り入れた。

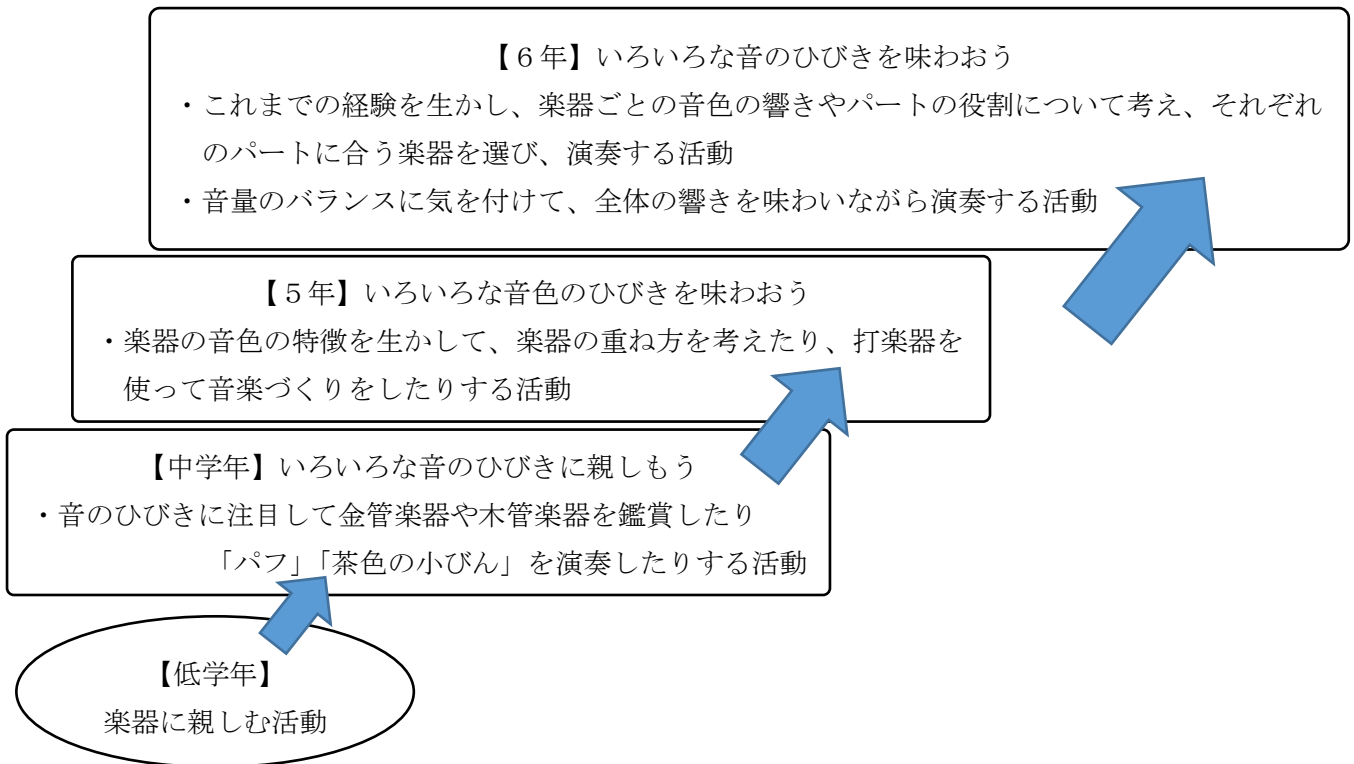
(2) 児童観

昨年度、単元内自由進度学習（以下、マイプラン・タイム）に取り組み、どの児童も意欲的に取り組むことができ、自分で学びを進める力を伸ばした。今年度の全国学力・学習状況調査の意識調査において、アンケート「学習したことを日常生活と関連付けていますか」に対して、「していない」「あまりしていない」と答える児童が4割弱いたことから、学習内容を自分事ととらえたり実生活に結び付けて考えたりするよりも課題をこなすイメージで進んでいる児童を多くいると考えられる。そこで、身近な学習材を取り入れることや日常生活に関連した探究的な課題（以下、パワーアップミッション）を設定したり、児童の関心に合わせてヒントコーナーのバリエーションを豊富にしたりすることで、学びを深めたり広げたりする力を伸ばすことをねらいとしている。

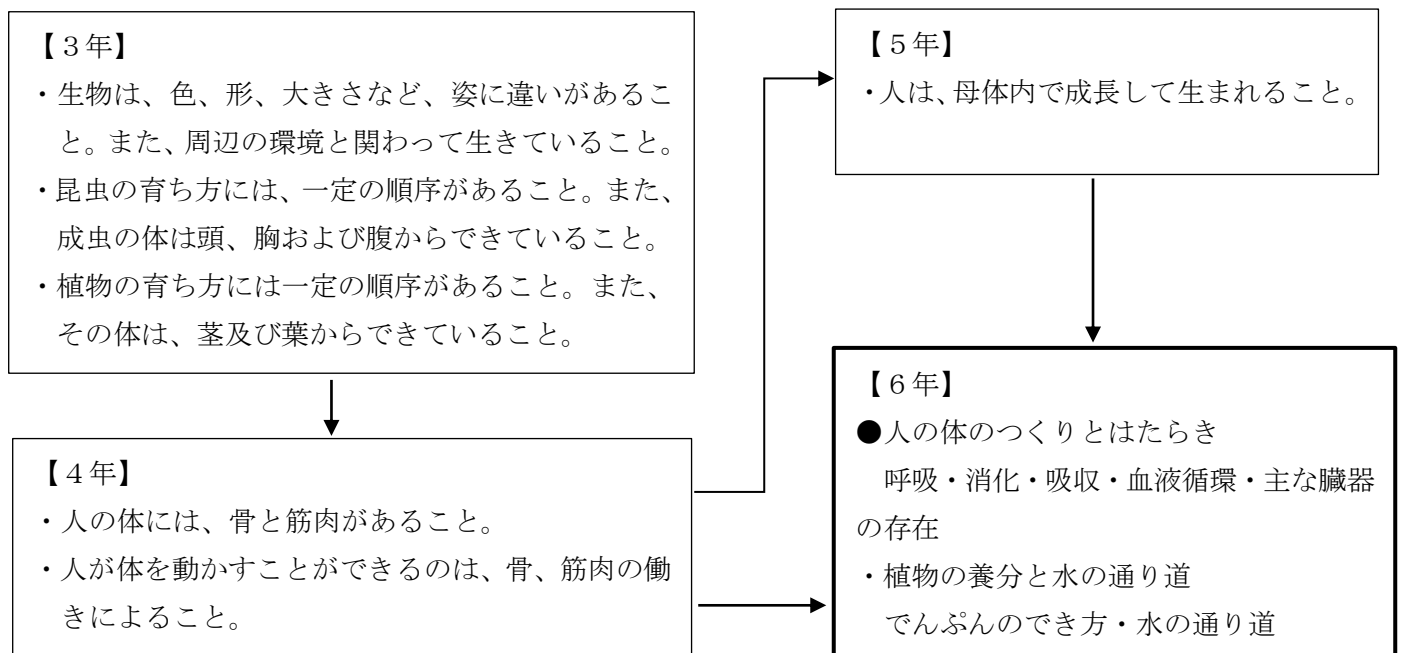
また、マイプラン・タイムで困ったことを問う設問で、「計画の修正」に苦労していることを半数の児童が挙げたことから、課題に対して児童が試行錯誤する時間を十分に確保することが必要だと考えた。そこで、今回は音楽と理科を合わせて10時間の長めのマイプラン・タイムを設定するとともに、学習環境の確保も力を入れることにした。今回、音楽と理科という、楽器や実験器具などの学習用具が限られる学習活動をマイプラン・タイムで学習することで、一人一人がじっくりと課題に取り組む時間を確保できると考え、この2教科2単元でのマイプラン・タイムを設定した。

5 本単元の学習の関連と発展

音楽科「器楽（共通事項が「音色」の題材）」



理科「動物のからだのはたらき」



6 目指す児童像に迫るための手だて

高学年分科会 目指す児童像

自分に最適な学びを計画・実行できる児童

(1) 環境・教材の工夫

ア 正しく実験道具や楽器を扱えるようになるための工夫

正しい実験操作・楽器演奏、知識技能の習得を意識させるために、実験動画や演奏動画を用意する。二次元コードを提示するだけでは、タブレットを開くという動作を面倒に感じたり自分の中にある知識のみで完結しようとしたりして、動画を確認せずに進んでしまうことが考えられるので、必ず見させたものは常時見られるようにしたり、動画を視聴から進める形式の学習にしたりする。

イ 空間や教材を確保するための工夫

- ・二単元を同時に行うことで、空間と教具を確保することができるという点がこの学習の大きなメリットと考える。一クラスずつ展開することで、一人一人の思いを実現しやすい学習環境を確保できる。また、教科担任制での教員の配置は変えずに、一人で二つの教科の伴走を可能にするために、留意点や意識させたいポイントを学習環境に散りばめるとともに、教員間で共有する。
- ・音楽の学習の「音を出す」、理科の「実験をする」「調べ学習をする」「拍動をきく」という特性を考え、児童の活動空間を確保できるようにするなど教室配置を工夫した。

(2) 学習過程の工夫

ア 学習意欲を持続させ、最後までやりきる力を付けるための工夫

単元の導入にゴール（目的）を示し、学習の見通しをもたせる。また、単元の終末のパワーアップミッションを児童にとって身近な題材を選んだり単元の導入で日常生活の例を取り上げたりする工夫をすることで、学びに向かう力や意欲の伸長につなげる。

イ 選択肢を設定することで自己調整力の育成につなげる工夫

理科では、学習課題（以下、ミッション）の順序を児童が選択できるようにし、音楽では、曲想やパートの役割に合わせて楽器を選択できるようにした。

7 授業観察の視点

- 実験操作・楽器演奏、知識・技能の習得のために、動画を活用したり学習を動画視聴してから進む形式にしたりする手だては有効であったか。
- 児童の活動空間確保と教師（ファシリテーター）の見取りの観点から、学習環境の設定の仕方は適切であったか。

時		1 2	3～8	9																																				
形態		一斉	個別	一斉																																				
目標		・学習の進め方を知り、見通しをもつことができる。 ・学習問題を捉え、学習の見通しをもって計画を立てることができる。	・呼吸や消化、吸収、循環などの仕組みとそれらに関わる臓器の働きについて調べる活動を通して、それらについての理解を図り、実験などに関する技能を身に付けるとともに、それらの過程や得られた結果を適切に記録し、結果を多面的に考え、妥当な考えを作り出す。	・人や他の動物の体のつくりとはたらきについて理解し、友達が調べた発表を聞きながら、日常生活における活用や他の事物・現象との関連を考える。																																				
学習の流れ		1 人が生きていくために必要なことは何かを考え、問題を見いだす。 2 食べ物(ごはん)を食べて、だ液によって別のものに变化したことを調べる。 3 学習の進め方を知る。 4 場や器具の使い方を理解する。 5 自分の学習計画を立てる。	1 自分の計画を確認する。 2 マイプラン・タイム <div>学習マップ<div>動物のからだのはたらき</div><table><tr><th></th><th>ミッション名</th><th>内容</th><th>教科書</th><th>場所</th></tr><tr><td>全体</td><td>やってみよう</td><td>○人はどのようにして生きている？ ☆呼吸 ☆食べる（消化・吸収） ☆運ぶ（じゅんかん）</td><td>p.26-30</td><td>理科室A</td></tr><tr><td rowspan="5">個人</td><td></td><td>○口から入った食べ物は、その後どのようにして消化され、吸収されていくのだろうか。</td><td>p.31-33</td><td>理科室B</td></tr><tr><td></td><td>○人やほかの動物は、空気を吸って、空気中の何を取り入れているのだろうか。</td><td>p.34-37</td><td>理科室A</td></tr><tr><td></td><td>○血液は、からだの中を、どのように流れて、養分や酸素などを運んでいるのだろうか。</td><td>p.38-40</td><td>理科室A</td></tr><tr><td></td><td>○それぞれの臓器はどのようなはたらきをしているのだろうか。</td><td>p.41-43</td><td>理科室B</td></tr><tr><td colspan="3">★確認プリント→自分で答え合わせ</td><td>個人ブース</td></tr><tr><td>パワーアップ</td><td colspan="2">○動物の消化管のヒミツを調べよう。（人間と比べて…） ○動物の呼吸の仕方を調べよう。 ○メダカの血管や血液の流れを観察しよう。 ○ニボシの解剖標本をつくろう。 ○胃腸薬はどのようなしくみなのか調べよう。 ○人の肺の模型を作ってみよう。 ○自主研究</td><td></td><td></td></tr></table></div> 3 今日の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する。		ミッション名	内容	教科書	場所	全体	やってみよう	○人はどのようにして生きている？ ☆呼吸 ☆食べる（消化・吸収） ☆運ぶ（じゅんかん）	p.26-30	理科室A	個人		○口から入った食べ物は、その後どのようにして消化され、吸収されていくのだろうか。	p.31-33	理科室B		○人やほかの動物は、空気を吸って、空気中の何を取り入れているのだろうか。	p.34-37	理科室A		○血液は、からだの中を、どのように流れて、養分や酸素などを運んでいるのだろうか。	p.38-40	理科室A		○それぞれの臓器はどのようなはたらきをしているのだろうか。	p.41-43	理科室B	★確認プリント→自分で答え合わせ			個人ブース	パワーアップ	○動物の消化管のヒミツを調べよう。（人間と比べて…） ○動物の呼吸の仕方を調べよう。 ○メダカの血管や血液の流れを観察しよう。 ○ニボシの解剖標本をつくろう。 ○胃腸薬はどのようなしくみなのか調べよう。 ○人の肺の模型を作ってみよう。 ○自主研究				1 マイプラン・タイムで学んだことを発表し合い、感想を伝える。 2 学習問題に対する臓器の働きについて、全体で確認する。 3 単元全体の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する。
		ミッション名	内容	教科書	場所																																			
	全体	やってみよう	○人はどのようにして生きている？ ☆呼吸 ☆食べる（消化・吸収） ☆運ぶ（じゅんかん）	p.26-30	理科室A																																			
	個人		○口から入った食べ物は、その後どのようにして消化され、吸収されていくのだろうか。	p.31-33	理科室B																																			
			○人やほかの動物は、空気を吸って、空気中の何を取り入れているのだろうか。	p.34-37	理科室A																																			
		○血液は、からだの中を、どのように流れて、養分や酸素などを運んでいるのだろうか。	p.38-40	理科室A																																				
		○それぞれの臓器はどのようなはたらきをしているのだろうか。	p.41-43	理科室B																																				
★確認プリント→自分で答え合わせ			個人ブース																																					
パワーアップ	○動物の消化管のヒミツを調べよう。（人間と比べて…） ○動物の呼吸の仕方を調べよう。 ○メダカの血管や血液の流れを観察しよう。 ○ニボシの解剖標本をつくろう。 ○胃腸薬はどのようなしくみなのか調べよう。 ○人の肺の模型を作ってみよう。 ○自主研究																																							
評価規準（評価の方法）	ア		・人や他の動物の体のつくりとはたらきについて、実験、調査などの目的に応じて、器具や機器などを選択して正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。（観察、学習シート） ・体内に酸素が取り入れられ、体外に二酸化炭素などが出されていることを理解している。（学習シート） ・食べ物は、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかったものは排出されることを理解している。（学習シート） ・血液は、心臓の働きで体内をめぐり、養分、酸素及び二酸化炭素などを運んでいることを理解している。（学習シート） ・体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があることを理解している。（学習シート）																																					
	イ	・食べ物が口の中でだ液と混ざることによって変化する学習をする中で、気付いたことや疑問に思ったことから、人の体の働き方について問題を見だし、表現している。（学習シート）	・人や他の動物の体のつくりとはたらきについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。（観察、学習シート） ・人や他の動物の体の働きについて、実験、調査などを行い、体のつくりと呼吸、消化、排出及び循環の働きについて、より妥当な考えを作り出し、表現するなどして問題解決している。（観察、学習シート）																																					
	ウ	・学習問題を見いだす活動に進んで取り組み、問題解決しようとしている。（観察）	・人や他の動物の体のつくりとはたらきについての事物・現象について調べる活動に進んで取り組み、問題解決しようとしている。（観察）	・人や他の動物の体のつくりとはたらきについての事物・現象について調べて学んだことや友達の発表を聞いて学習や生活に生かそうとしている。（観察）																																				

時		1	2～5		6～8		
形態		一斉	個別		協働・一斉		
目標		・学習の進め方を知り、見通しをもつことができる。 ・「ラバースコンチェルト」の4つの旋律と打楽器のリズムを知るとともに、楽器の響きの特徴を理解する。	・「ラバースコンチェルト」の4つの旋律と打楽器のリズムを演奏し、どのように旋律の役割や楽器の響きの特徴を生かした表現をするかについて主体的に考え、表現する。		・「ラバースコンチェルト」の曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・様々な音の響きやそれらの組み合わせの特徴を理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けている。		
学習の流れ		1 「ラバースコンチェルト」の範奏を聴き、どのような曲想か考える。	1 自分の計画を確認する。			1 マイプラン・タイムで学んだことを発表し合い、感想を伝える。	
		2 各パートの旋律を知り、歌ったりリコーダーで演奏したりする。	2 マイプラン・タイム			2 グループになり、「ラバースコンチェルト」を様々な音色を工夫しながら演奏する。	
		3 「ラバースコンチェルト」で使用する楽器の特徴を調べ、学習シートにまとめる。	個人	バイエル	① パートを工夫して演奏しよう	1 8～2 1 p	ステップルーム
		ツェルニー		② パートを工夫して演奏しよう	1 8～2 1 p	アクティブルーム	
		ブルグミュラー		③ パートを工夫して演奏しよう	1 8～2 1 p	6－2	
		ソナチネ		④ パートを工夫して演奏しよう	1 8～2 1 p	6－1	
		ソナタ		打楽器パートを工夫して演奏しよう	1 8～2 1 p	フリースペース	
		★確認動画→自分の演奏について課題を考える				個人スペース	
4 楽器の組み合わせについて、動画を視聴し、響きの特徴を知る。	パワーアップ	「スマイル」の各パートを工夫して演奏しよう		① ステップルーム ② アクティブルーム ③ 6－2 ④ 6－1			
5 自分の学習計画を立てる。	3 今日の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する。			4 題材全体の学習を振り返り、マイプラン・シートに記入する。			
評価規準（評価の方法）	ア	・曲想と音色などの音楽の構造との関わりや、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。（学習シート、観察）				・思いや意図に合った表現をするために必要な音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。（観察）	
	イ					・音色、リズム、旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、表現するとともに、曲の特徴を捉えて思いや意図をもって表現を工夫して、演奏している。（観察）	
	ウ		・色々な音色が重なって生まれる響きを味わいながら聴いたり表現したりする活動に興味・関心をもち、主体的に器楽の学習に取り組もうとしている。（観察）				



理科「動物のからだのはたらき」（9時間） 学習の様子

